

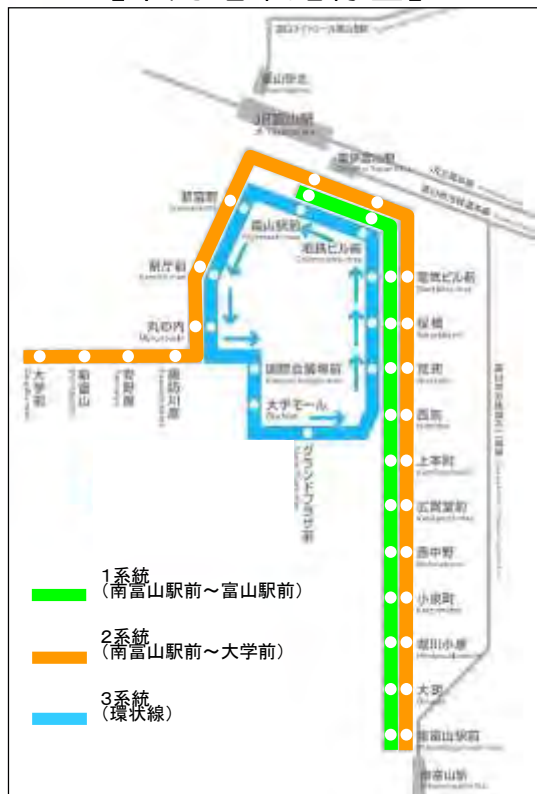


# コンパクトなまちづくりの効果 等

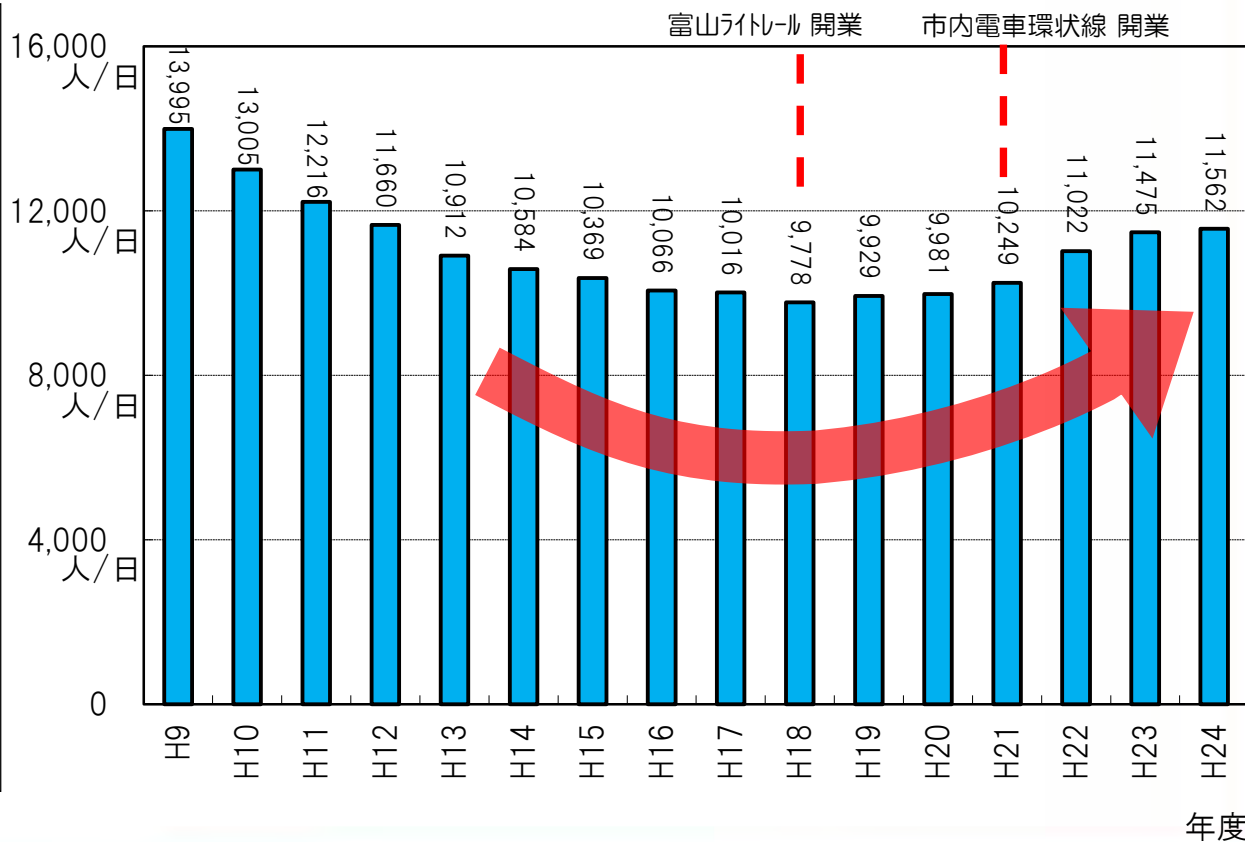
# コンパクトなまちづくりの効果 ～市内電車の利用状況～

市内電車利用者数は平成18年度まで減少傾向が続いていたが、富山ライトレールや市内電車環状線の整備、ICカードシステムや低床車両の導入など路面電車の活性化に向けた取組みにより、**市内電車の利用者数が平成19年度以降は増加に転じている。**

【市内電車路線図】

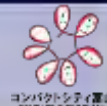


【1日当り乗車人数の推移】



# コンパクトなまちづくりの効果

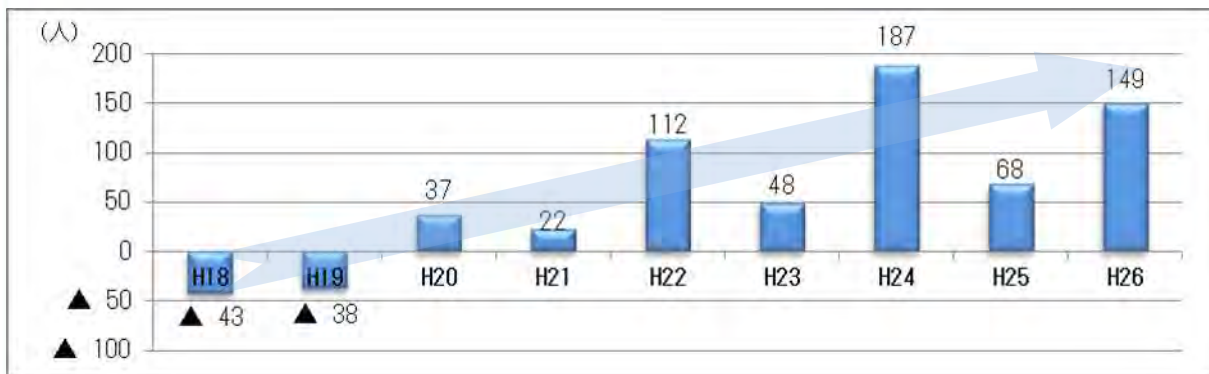
## ～転入人口の増加～



### ■ 中心市街地と公共交通沿線居住推進地区の社会増減(転入－転出)の推移

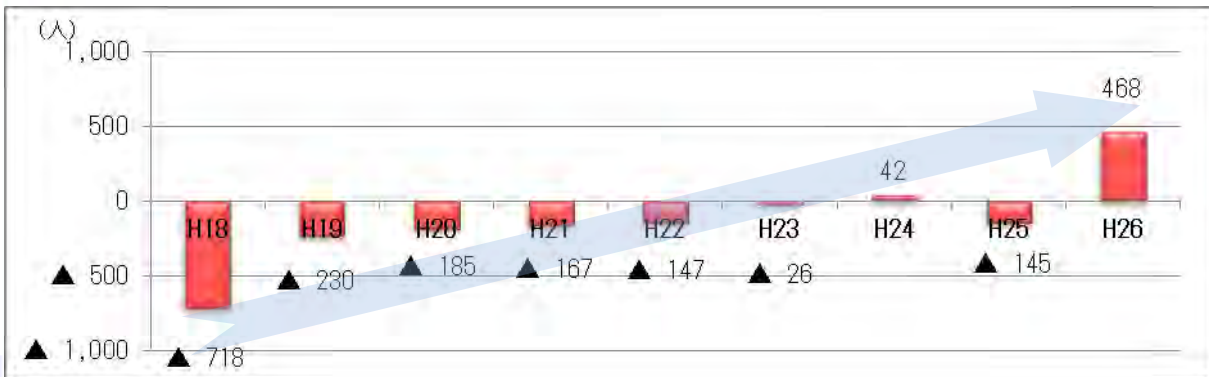
- ・中心市街地では平成20年より、**転入超過を維持**しており、**平成26年は、前年と比較し、超過数が増加**している。

【中心市街地(都心地区)の社会増減(転入－転出)の推移】

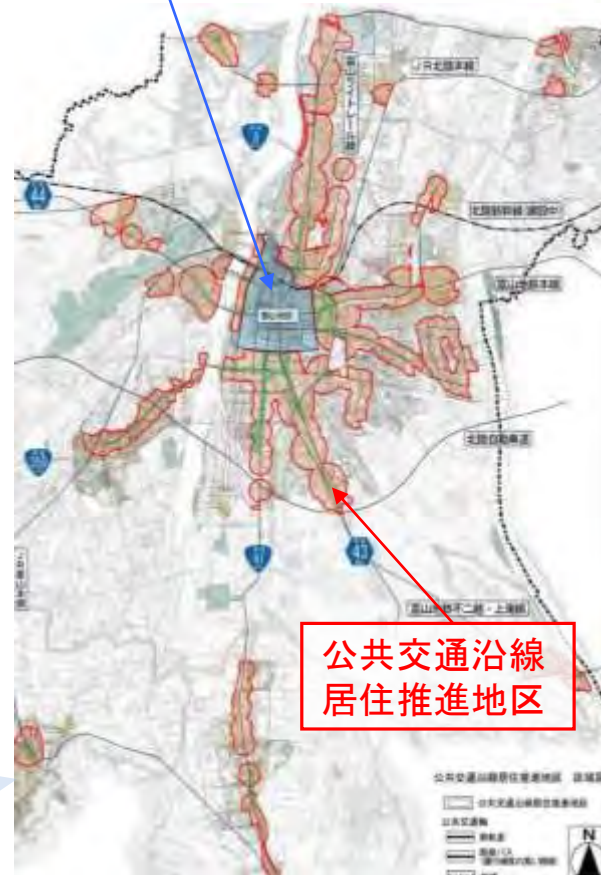


- ・公共交通沿線居住推進地区では、**転出超過が減少傾向**にあり、**平成24年、平成26年は転入超過**となった。

【公共交通沿線居住推進地区の社会増減(転入－転出)の推移】



中心市街地地区

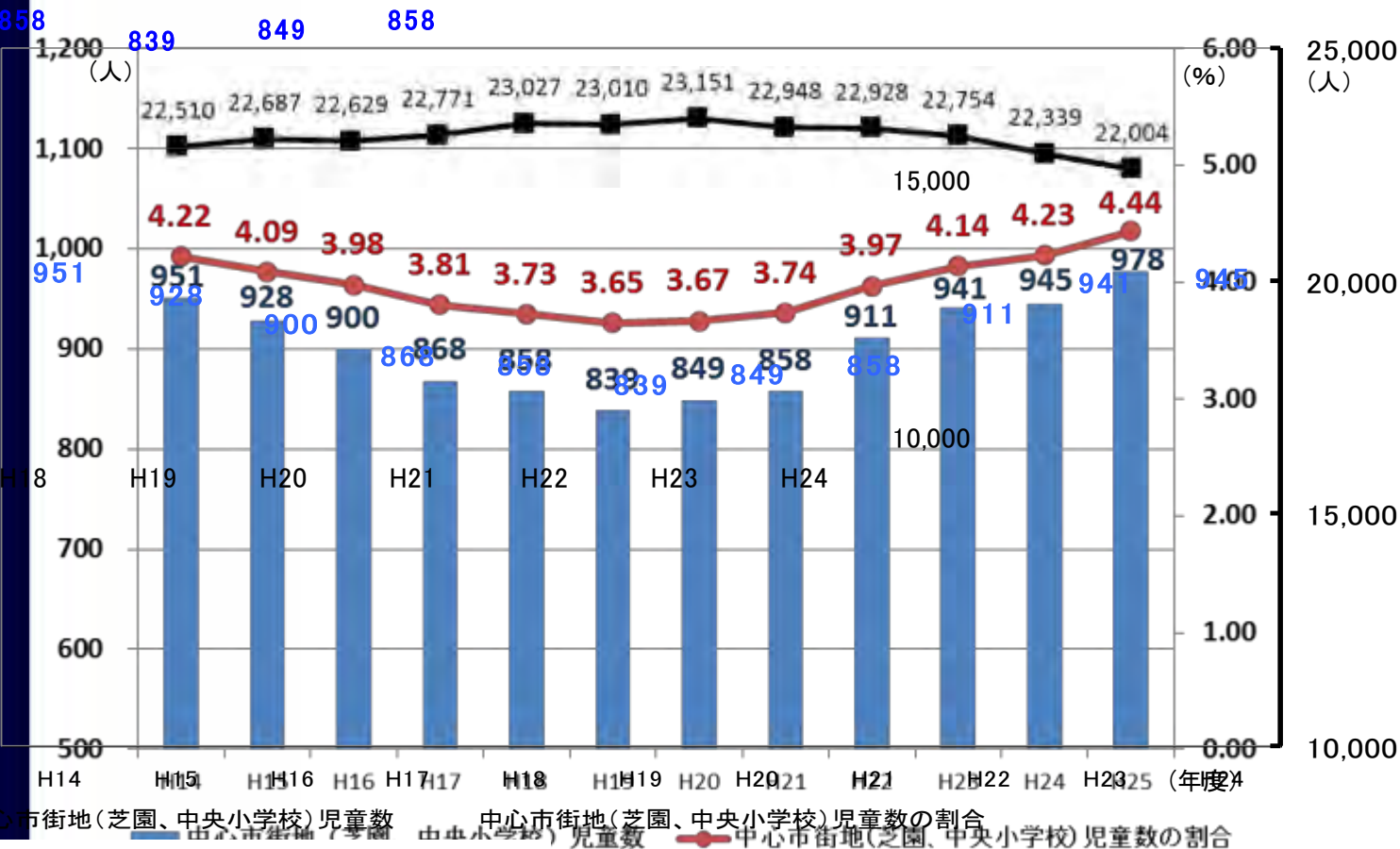


公共交通沿線  
居住推進地区

# コンパクトなまちづくりの効果 ~中心市街地の小学校児童数の増加~

- ・中心市街地の小学校児童数が **139人(16.6%)増加** (H19-H25)
- ・富山市全体に占める中心市街地の小学校児童の割合が **0.8ポイント増加** (H19-H25)

【富山市立小学校児童数と中心市街地(芝園、中央小校区)児童数の推移】



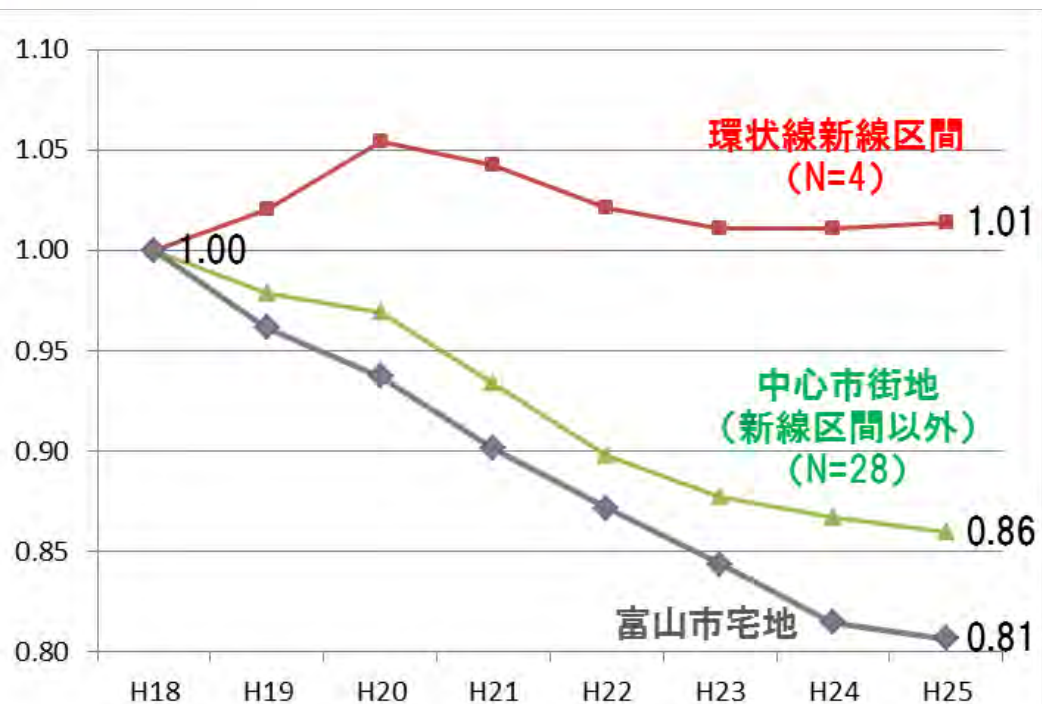
■ 市立全小学校児童数

※出展:学校基本調査

# コンパクトなまちづくりの効果 ～地価の維持～

- 環状線新設区間の沿線では平成18年度以降地価が、**ほぼ横ばい**で安定している。
- 新設区間以外の環状線沿線の地価は、平成19年度以降下落しているが、富山市宅地の平均と比較すると**下落率が緩やか**である。

【中心市街地の地価変動】

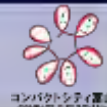


中心市街地の地価変動（H18を1.0とした場合）  
 （富山県地価公示・地価調査 価格要覧 平成25年度版より）  
 ※地価公示（国調査、基準日：1月1日）、地価調査（県調査、基準日：7月1日）  
 富山市宅地：固定資産税課税の土地課税台帳の決定価格を対象面積で除した値  
 （富山市統計データを基に算定）



中心市街地エリア

# コンパクトなまちづくりの効果～地価調査（H26年7月1日）結果～



- 富山県全体の地価平均は平成5年以降（22年間連続）下落したが、  
富山市は+0.2%（前年比）に転じ、市内商業地は平均+0.8%上昇した。
- 特に市内中心部においては、複数地点で+3.0%を超える上昇が確認された。

## <上昇に転じた要因>

- ・ 商業地：来年3月に控えた北陸新幹線開業、  
複数の再開発事業等への期待
- ・ 住宅地：中心市街地周辺での高齢者を中心  
とした転入超過、市内電車沿線区間  
及び都心校区等への堅調な需要

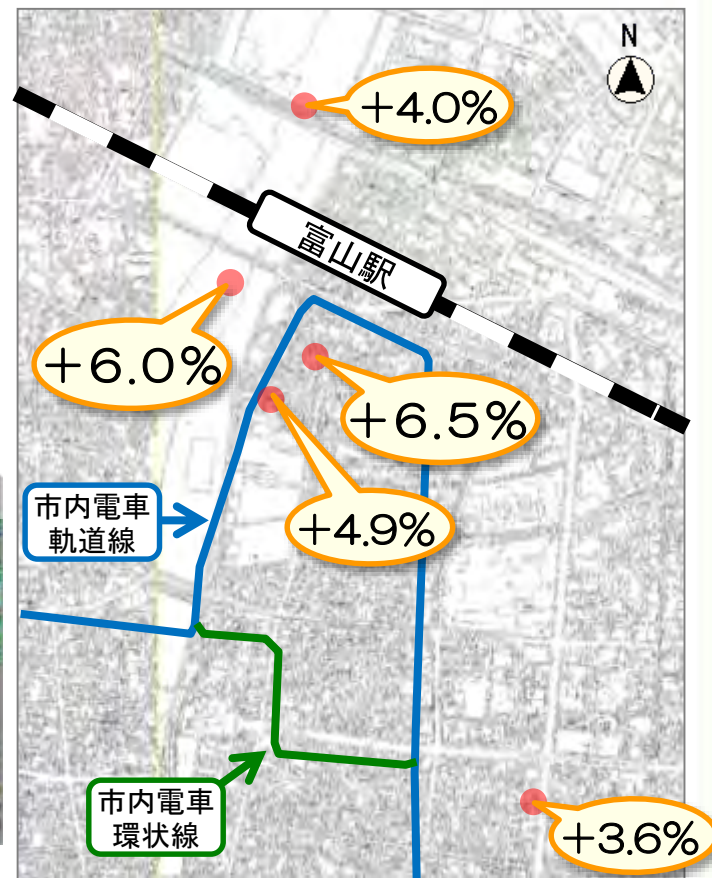
市内電車沿線区間



富山駅高架下LRT空間イメージ



（富山県地価調査結果 平成26年度版より）  
※地価調査（県調査、基準日：7月1日）、調査地点数（市内88箇所）



【地価上昇率が大きい地点】